

全国漁業信用基金協会 茨城支所

1. 茨城県の紹介

茨城県は、関東地方の北東にあり、首都東京の中心からは、南端の市で40km、県都の水戸市は100kmの圏内にあります。

本県は、常陸国風土記（713年編纂）に「土地広く、土が肥え、海山の産物もよくとれ、人びと豊かに暮らし、常世の国のようだ」と書かれているように、古くから多くの人々が豊かに暮らしてきました。江戸時代には、水



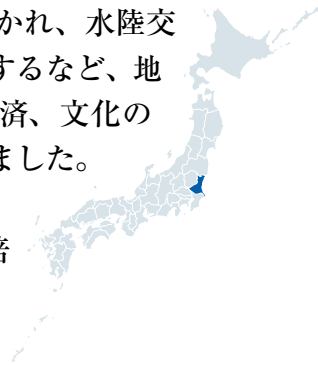
【偕楽園】日本三名園の一つ。天保13年（1842年）水戸藩第九代藩主徳川斉昭によって造園。

戸に徳川家の藩が置かれ、水陸交通の要所として発展するなど、地方における政治、経済、文化の中心として栄えていました。

以後、本県は、この地域でそれまで培われてきた産業や文化を土台に、農林水産業、工業、科学技術、文化、福祉等あらゆる面で、大いに発展を続けてきました。

結構いけてる県なのですが、都道府県魅力度ランキングではなぜか最下位常連ともなっています(⊖)。伸び代はタップリある(⊕)。

※小ネタ話(°o°;) いばらき、語尾は濁りません。でもなぜか漁船登録識別標はIG。IKは石川県です。



2. 茨城県の水産業

本県は北部太平洋に面し、沖合で親潮と黒潮が交錯するという漁場特性と高い生産力を活かした多種多様な漁業が営まれています。沖合漁業では、本県の基幹漁業である大中型まき網のほかに沖合底びき網等が、また、沿岸漁業では、船びき網を中心に小型底びき網、さし網等が行われています。

全国第2位の面積を持つ霞ヶ浦北浦では、わかさぎ・しらうお等を対象とする漁業やこ

い等の養殖業が、また、県中央に位置する汽水湖の涸沼ではしじみ漁等が行われています。

沿海地区や霞ヶ浦北浦地区では、それぞれの特色を活かした水産加工品の生産が行われ、地元の水揚げされた原料を用いた冷凍品、しらす干し、佃煮等のほか、輸入原料を用いた蒸しだこ、干しししゃも等を生産しています。

□ 茨城県の漁獲量（収穫量）及び水産加工生産量、全国順位、産出額

項目	漁業種類	H30	R1	R1全国	R1順位	R1シェア
漁獲量(t)	海面漁業	259,031	290,796	3,228,025	2位	9.0%
	内水面漁業	2,520	2,605	21,767	4位	12.0%
	霞ヶ浦北浦	849	729	-	-	-
収穫量(t)	内水面養殖業	1,219	1,099	31,108	8位	3.5%
	こい養殖	1,063	970	2,741	1位	35.4%
水産加工品生産量(t)	-	172,312	171,545	2,813,145	4位	6.1%
産出額(百万円)	海面漁業	23,451	21,817	868,171	11位	2.5%

(資料：漁業・養殖生産統計)



【いわし・さばを対象とする大中型まき網漁業】



【さば】全国一の漁獲量



【あんこう】冬のあんこう鍋は絶品



【しらす】近年は生食としても



【わかさぎ】霞ヶ浦北浦の主要魚種

3. 茨城支所の概要

- 住所：水戸市三の丸1丁目1番33号
- 電話：029-226-0717
- 担当理事：高濱 芳明
たかはま よしあき
- 担当監事：八角 直道
やすみ なおみち
- 会員数：59会員（R3年度末現在）
- 出資総額：928,200千円（同）
- 保証残高：3,277,619千円（同）

4. 茨城支所の取組み

東日本大震災の際に本県は、津波等により、漁船・漁具、漁港・関連施設など水産関係被害総額は660億円にのぼり、加えて福島第一原発事故にともなう放射性物質の影響などもあり、多大な被害を受けました。

当支所（当時は全国協会合併前）では、被災した漁業者、漁協等の漁業近代化資金及び信漁連プロパー資金等に係る融資に対し漁業者等緊急保証対策事業により442件159億円（H23～R2年度）の債務保証をするとともに、保証保険資金等緊急支援事業により5件5億円（H23年度）の代位弁済を行い、復旧・復興を支援してまいりました。

現在の新型コロナ禍については、社会のシステムや人々の生活に大きな影響を及ぼ

しており、水産業においても、飲食事業、観光・宿泊事業等、「食」に繋がる事業・産業は軒並み厳しい状況となっております。これまでのところ本県の水産においては、外出自粛による内食需要増から主にレギュラー魚介類の需要が底堅く推移して、大きな影響には至っておりませんが、引き続き注視しながら対処してまいります。

将来的な面では、人口減少のなかで、本県漁業において経営体数の一定の減少は致し方ない面があります。これは全国的な傾向ではあるものの、海況条件が厳しい本県においては、海況に恵まれるようなところと違い、残っていく漁業者・経営体は、基幹となるまき網漁業を主体に意欲的で力強く、このような観点から本県漁業のファンダメンタルはしっかりしています。まだまだ、伸び代はあります^①。

今後とも茨城支所としては、ICTの進展や予期せぬ災害、国際情勢の変化など、プラス・マイナスいずれに振れるかわからぬ水産業をとりまく状況の変化に、金融機関との連携を密にしながら柔軟に対応して、金融の底支えとしての役割を果たし、地域漁業の持続的発展に寄与してまいります。



【北茨城市 大津漁港】

震災時甚大な津波被害を受けた漁港は復興を遂げた。